

## 2. 自由意見



## 障害者アンケートの自由意見

### < 相談・情報提供・交流について >

- ・ 現在の仕事が出来なくなった場合の相談する福祉制度やひとりで暮らす場合の不安を相談するところが乏しいと思う。
- ・ 親の介護をしながら生活している障害者同士の交流の場を持てる場が欲しい。
- ・ 就学相談に行っても情報が乏しく相談どころか混乱してしまい、役に立たない。もっとしっかりした相談員をおいて欲しい。
- ・ どこに相談したらいいのかわからない。
- ・ 心の面も相談できるような役所になって欲しい。
- ・ 目に見えない障害を持つ者は理解されにくいため辛い思いをすることが多い。見た目にはわからない生涯に限らず多くの障害に対して市民のみんなが「同情」ではなく「理解」を示してくれる市になるように広めてもらいたい。
- ・ 障害者への関心をもっと持ってもらいたい。

### < 福祉サービスについて >

- ・ 医療券の助成の対象が厳しい。薬の副作用で病気になっても対象外にされてしまうので困る。
- ・ 福祉の切捨て、助成、補助が少なくなるのは好ましくない。
- ・ 支援費以前は必要なサービスの量が確保されていたが、支援費になりサービス量が大幅に削られてしまって困る。障害者の自立した生活を支えるという意味においても必要なサービスが利用できるようにするべきだと思う。
- ・ 病院やサークルの送迎は実費で頼んでいるのでもっと負担にならない方法を考えて欲しい。
- ・ 支援費を増やして欲しい。
- ・ 高齢者にオムツの補助がされているように障害者にも多少の補助をして欲しい。
- ・ どういう制度があるのか分からなかったため申請が遅れてしまった。申請前の医療費もさかのぼって請求できるようにして欲しい。
- ・ ヘルパーの充実を望む。

### < 福祉関連施設の整備について >

- ・ 施設やグループホーム等の充実を望む。
- ・ 介助者が入院したり休養ができた時に対応してくれる施設が欲しい。
- ・ 親亡き後の重度な障害を持つ子供が住むことのできる生活寮、グループホームを作って欲しい。
- ・ 東村山は小規模作業所が点在しているが新しい建物は無理であっても今ある市の空いているところや学校等で空いているところがあれば作業所に振り分けて欲しい。
- ・ 障害者がのびのびとスポーツをしたり集まったりできる広い施設を作って欲しい。

### < 教育・保育について >

- ・ 身障学級のない学校との交流を図り、障害等についての児童の理解を深める教育が必要だと思う。
- ・ 障害児の学童保育を小学校6年生までに延長して欲しい。

- ・ 普通学級へ通学している児童に介護ヘルパーを派遣して欲しい。
- ・ 障害児枠を利用して保育園に通園して助かっているが受け入れ人数に限度があるので希望する保育園に入れない児童がいる。障害児枠の拡大を望む。

<まち中のバリアフリー等環境問題について>

- ・ 車いすでも安心して外出できる道路や歩道を作って欲しい。
- ・ 障害者が安心して子供の面倒をみられる大きな公園がなくて困る。本町付近などは都営が建つばかりで散歩に出かけたりするところもなく子供を外に連れ出せない。
- ・ 秋津駅に早くエレベータ、エスカレータが欲しい。
- ・ 市内に障害者に適したトイレ、風呂場を備えた障害者住宅を増やして欲しい。
- ・ スポーツセンター等公共の駐車場の車いすマークの場所の不足。
- ・ 歩道がガタガタなので車いすでの移動が大変不便である。なんとか改修を希望する。
- ・ グリーンバスは車いすでも乗れることになっているがいつも満員で乗れる状況ではないのもうちょっと考えて欲しい。
- ・ 東村山駅にエレベータ、エスカレータができてとっても助かっている。
- ・ 駅の構内や街の通行の邪魔にならないところにちょっと腰をかけられるベンチなどがあると助かる。

<役所関係者への意見>

- ・ 障害者に限らず市民の便宜のため市役所の出張所を身近に欲しい。
- ・ 役所を月1～2回土曜日にも開けて欲しい。
- ・ 東村山市は身体障害者にとって大変生活しやすいと思う。
- ・ 介護している親がいなくなった後の不安を解消するためにも行政や役所がもっと考えて欲しい。
- ・ 施設等の職員の人事異動を検討して欲しい。同じ人が同じ施設に何年もいるのはあまりよくないと思う。

<その他>

- ・ 障害者福祉すべての面でマイナスの施策しか行わないことには非常に不満である。
- ・ 財政難なのは分かるが、福祉面を削るのはやめて欲しい。
- ・ 親亡き後の本人が自立していけるような援助が欲しい。
- ・ 施設の中でもいじめがあるので定期的に調査をして欲しい。

## 地域福祉関係者アンケートの自由意見

### < 組織問題について >

- ・ 自治会、老人クラブ等の後継者が少なく、ボランティア活動にも参加者が減少するのみで毎年4月の総会時期には悩みの種となっている。
- ・ 地域活動団体への行政側からの支援。
- ・ 地域活動は行政だけでも地域住民だけでも単独ではうまくいかないと思う。住民の要望に対し両者連携して対応する必要があると思う。
- ・ 市の方から自治会に保健推進員選出の要請と協力を呼びかけて欲しい。
- ・ どのようにして申し込みをしたらいいのか分からないことが多い。もっと情報を明確に知らせるべきだ。
- ・ 町会、自治会の活動に対して借家やアパートの住民が協力的でない。もっと大家さんが積極的に入会を勧める必要があると思う。
- ・ ボランティア活動等、最初の一步ができていない。その町やその団体に古くからのひとたちがいて新しく入るのに踏み込む事ができずにいると思う。もっと若い人たちに活動してもらいために世代交代も必要だと思う。
- ・ 社会福祉協議会の仕事であると思われることを民生委員が間に入らせられ同じことをダブって活動していることが多い。
- ・ 福祉協力員もそろそろ世代交代の時期にきていると思う。若い人々の協力を希望する。
- ・ 一般の地域住民が社会福祉協議会などをどういうところか、何をしているところか理解していない人が多いと感じる。

### < 活動面について >

- ・ 保健推進会の活動内容や存在をもっとPRするべき。
- ・ 健康で明るい高齢者、障害にめげない強さを持った人など受け身的なものではなく、積極的なものを目指すような活動が増えると良いと思う。
- ・ 気軽にボランティア活動に参加したい人はたくさんいるが、何らかの組織に入らないと活動できない状態では問題である。
- ・ 色々な形で福祉活動がされているが、活動のつながりがなく、バラバラになっていると思う。福祉の様子等も知識を得られたらと思う。
- ・ 若い人たちの地域活動への参加が今ひとつ消極的。
- ・ だれでも気軽に参加できる町おこしのような活動をすべき。
- ・ ボランティア活動への体験、呼びかけ等をもっとするべきだと思う。

### < 拠点・施設づくりについて >

- ・ 地域活動の拠点となる公民館、集会場の充実。
- ・ 市民、町民がいつでも利用できるグラウンドの充実。
- ・ 乳幼児から高齢者まで老いも若きもすべての地域住民が趣味を楽しみながら気軽におしゃべりできるサロン（たまり場）の設置を要望する。

- ・ 立派なものでもなくとも構わないので高齢者が歩いて行ける地域内に気軽に集える場所の設置を希望する。

#### <人材育成について>

- ・ 地域活動のリーダー養成。
- ・ 福祉関係者の代表となる人の人格指導。決して知名度、積極性のみで代表にしてはいけないと思う。適度に関係者の交換のようなことは必要である。
- ・ 社協、体力づくり、保健推進員、ふれあいセンター、青少対、自治会等の団体がもっと協力して若い世帯、子どもを育てる方向に町づくりができたらと思う。専門のコーディネーターのような人を行政から差し向けて地域活動の活性化を図って欲しい。

#### <教育・保育面について>

- ・ 次世代をになう子供たちの教育や健全育成にもっと力を注いで欲しいと思う。
- ・ 高齢者だけでなく、子供たちが安心して暮らせる町に、パートで働く親たち、土曜日は学校が休みになりひとりで留守番をする小学生、その時の受け皿になるものが欲しい。
- ・ 学校行事（運動会、学芸会、作品展等）を地域住民に開放するべきだ。

#### <就労・経済面について>

- ・ 母子家庭の経済的援助は「手当金」を与えるだけではなく、将来きちんと自立ができるように手に職をつけさせるような就業支援を行った方が良いと思う。

#### <交通面について>

- ・ 交通の便が悪くバスがなく困っている。
- ・ 高齢者が病院や治療に通うためにミニバスを市内に増やして欲しい。
- ・ 市で運営しているグリーンバスをもっと広域に走らせるようにして欲しい。萩山町はエレベーターもない萩山駅を経由しなければならないので高齢者や障害者は病院へ行くのも苦労する状態である。

#### <防犯対策について>

- ・ 空き巣対策等の防犯パトロールの強化を考えるべきだと思う。
- ・ 街灯の増設を早急に対応して欲しい。
- ・ 街灯のないところとかあっても暗い場所が多々ある。もっと防犯対策に力を入れて欲しい。

#### <ひきこもり対策について>

- ・ 活動する場所は多くなるのに利用する人が限られて家に引きこもりがちな人をどう連れ出すか今後の課題である。

#### <ひとり暮らし対策について>

- ・ 身寄りのない孤独な一人暮らしの老親の身元保証人、病気、死亡、死亡後の対応を考えておくべきだと思う。

<地域ぐるみ対策について>

- ・ 少子化、高齢化の時代、行政と地域住民が一体となって真剣に取り組む必要があると思う。全員参加の福祉研修等を行い、意識を高める機会を計画して欲しい。
- ・ 高齢者や障害者を地域で把握し自分の町の人間（高齢者・障害者）を支援し守る取組が必要だと思う。

<行政への要望について>

- ・ 難題時等、行政の窓口を大きく広げて的確なる指導を望む。
- ・ 所詮、自らの意思で計画、行動できる人は少ないので行政主動による活動を今後とも充実して欲しい。
- ・ 地域住民が誰でも参加できる活動を自治会、行政が中心となって企画、立案して欲しい。
- ・ 役職をもっている方がたくさんいて実際、活動できる人が少なく、1年間ほとんど定例会にも出られない人がこの役を引き受けている。市の指導を改めてお願いしたい。
- ・ 行政のみが一人歩きしている感じがあり、地域住民の協力性が乏しく思える。
- ・ 町内には保健推進委員と同様な活動をしている組織があり、町民は市との関係が分かりづらく、どの組織も自分たちが好きで勝手にやっている活動と誤解している。行政としてももっと保健推進委員の位置づけを市民に周知して欲しい。
- ・ 自治会がもう少し活動していけるような指導、援助をして欲しい。
- ・ 地域と一言と言うが、どの範囲を考えるかは個人によって違うと思う。今後、行政が取組む際、十分な配慮が必要だと感じる。
- ・ 地域活動・福祉活動と市が言うわりに市の職員は自分の給料範囲での活動しかしていないと思う。
- ・ 行政が責任逃れをして何かと民間にさせようとしているように感じられる。
- ・ 行政は社協、地域に任せるのではなく、ともに行動していくことを実行していかなければならない。委託管理のつもりでは困る。まずは率先して欲しい。

<その他>

- ・ 福祉の言葉からは高齢者、障害者、生活保護・・・しかしこの事を充実することからは、将来の東村山を明るくする展望はみえないと思う。老人会への補助金はほとんど飲食費になっている。高齢者は結構組織に頼ることなく、自分なりの生活を楽しんでいると思うので老人会は自分たちでお金を出して運営していくべきだと思う。
- ・ 年に数回、高齢者宅その他へ福祉関係の集金などで伺う時があるが、電話をしてから伺うようにしている。しかし電話番号が分からないため直接伺うこともあるが、来訪した目的や自分の証明を出して伝えたりするのは本当に大変なのでできればもっと楽になる方法を考えて欲しい。
- ・ 生活保護を受けている人の中には働かず遊び放題の人をみかける。民生委員は一人につき2～3人は必要だと思う。表面だけ見て決め手しまうことは危険である。
- ・ 東村山市はやたらと募金集めが多すぎると思う。
- ・ 団体等に出している補助金は飲食代に利用しているようだったら必要ないと思う。